

福祉バス運行開始

利用 老人クなど六団体
主体

老人クラブや身障者更生協会など福祉団体の強い要望に応じて購入した福祉バス「やまゆり」号が六月中旬納車になり、関係団体からさっそく利用されるなど、今後の町民福祉の増進に大きく役立つと期待が寄せられています。

同バスはリクライニングシートつき四十二人乗りの中型バスで購入価格は三百九十万円となっています。

運行に関しては、別に要綱が定められていますが、その主な点は次のようになっています。

①運行は次の町内六福祉団体及び町長が適当と認めた場合に限り、(該当団体名) (イ) 社会福祉協議会、(ロ) 民生委員協議会、(ハ) 老人クラブ、(ニ) 母子福祉会、(ヘ) 手をつなぐ親の会、(ホ) ボランティア。

②乗車人員は原則として運転手を含み十五人以上四十二人までの場合とする。

③運行時間は午前八時半から午後五時までの日曜日を原則とする。

同バスの愛称は、前号の公募に基づいて寄せられた三十三件について、老人クラブ連合会や身障者更生協会など福祉関係団体長で構成した選考会で、福祉バスにふさわしい愛称であったと他町村ですでに採用されているものは避け、方針で慎重に審査を行った結果、鎌石幸子さん（五海保）の応募の「やまゆり」を採用した。



活用が期待される「やまゆり」号

と決定したものは、古くから「花言葉」に「純潔」とあり、町内に随所に自生、清々として咲く山ゆりは町民の福祉増進に活躍する福祉バスにピッタリの愛称だと早くから各方面から人気を集めていた。

なお、今回所定の方法で応募された方々に對しては、それぞれ別途に粗品を送付してご協力へのお礼にかえさせていただきます。

玉小児童たちは、古代人の生活を推察しながら目を輝かせ魅せられたように熱心に従事していました。

今回の調査が局所的なものであるだけに遺跡全容の解明はおぼつかないながらも、前

述のほかに①部内では由利原に次ぐ標高(三一〇)の遺跡であること。②集中的に土器片が出たのはフラスコ状か袋状のピットと見られること。③ボツメキ一帯が、水・東南に面した台地・狩猟採集に便利という古代人の住居地としての条件が整っている場所であること。等が判明したと言われます。

遺跡の保存に力を調査結果については、伊藤教諭が専門的な見地から文化庁へ報告書を出すことになるといわれていますが、同教諭は「現場はボツメキ水源地で近くにこの森もあり、訪れる人も多くと思われるので遺跡を破壊することのないよう立て札を立て、古代人のロマンを推察する場にしたい」と語り、保存を強く呼びかけています。

東中生や玉小児童たちは、今回の調査活動に参加して郷土史や考古学に、新たな興味を芽生えさせています。

ボツメキ水源地調査

五月下旬、東由利水道ボツメキ水源地周辺の地質調査を、マキ水源地周辺の地質調査をしてきた作業員らが縄文時代のものと見られる多数の土器片を発見したことから、六月七日の二日間、伊藤教諭と玉小教諭を中心に同小児童や東中生の現地調査が行われ、新たに数十点の土器片が採集されました。

県内には十数名しかいないという日本考古学協会会員の肩書を持つ伊藤教諭の鑑定によると、この土器片は約三千五百年前の縄文時代後期のものと見られ、一帯は当時の住居跡でないかということですが、

ボツメキの泉を中心に、ロマンに富んだ古代人の生活舞台から奇しくも四千年の歳月を隔てて水道の水源地を求めた私たちが、目に見えない因縁の深さを知られるとともに当時の生活様式にあらためて興味を覚えます。

目を輝かす小中生遺跡の調査は第一に保存を心がけ、放置することによって損壊する場合に限り行うのが鉄則。という伊藤教諭の説明をうけ、崩落が予想される崖面から丹念に土器片を採集する東中生や郷土史クラブ員や

「50年訪ソ青年の船」がモスクワに到着し、八月十日から二週間におよぶ研修にわたる。小松佳和(田代) 拓殖大学政経学部卒、商業 24歳。小松俊博(久保) 本荘高等学校卒業、工業 20歳。二人は、満20歳以上30歳未満の青年で、協同性に富み、将来、地域社会や職場のリーダーとして活躍が期待されるという条件を備えていると、町長の推せんをうけていたものです。



土器片の多く出るピットの前に説明する伊藤教諭

五月下旬、東由利水道ボツメキ水源地周辺の地質調査を、マキ水源地周辺の地質調査をしてきた作業員らが縄文時代のものと見られる多数の土器片を発見したことから、六月七日の二日間、伊藤教諭と玉小教諭を中心に同小児童や東中生の現地調査が行われ、新たに数十点の土器片が採集されました。

遺跡の調査は第一に保存を心がけ、放置することによって損壊する場合に限り行うのが鉄則。という伊藤教諭の説明をうけ、崩落が予想される崖面から丹念に土器片を採集する東中生や郷土史クラブ員や

「50年訪ソ青年の船」がモスクワに到着し、八月十日から二週間におよぶ研修にわたる。小松佳和(田代) 拓殖大学政経学部卒、商業 24歳。小松俊博(久保) 本荘高等学校卒業、工業 20歳。二人は、満20歳以上30歳未満の青年で、協同性に富み、将来、地域社会や職場のリーダーとして活躍が期待されるという条件を備えていると、町長の推せんをうけていたものです。

木島さんのご芳志は、昭和四十七年に町社協へ二万円を寄附されたのに続き今回が二回目にあたります。ありがとうございます。

高跳で新記録 老方小の千鶴子さん

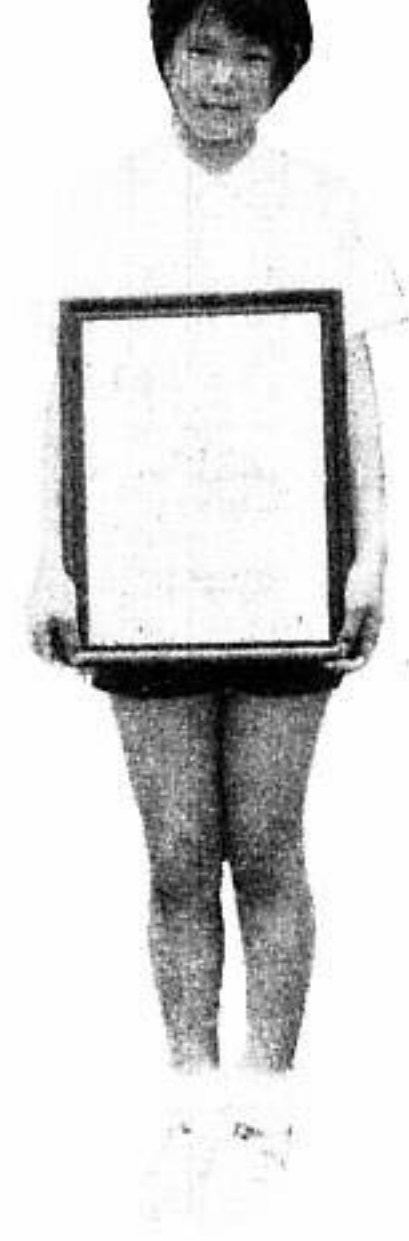
—第29回郡市小中陸上競技大会—
東中女子はリレーで2連覇

六月二十日、本荘南中グラウンドで開催された第29回本荘由利小中学校陸上競技大会で、老小の長谷山千鶴子さんが走高跳に大会新記録で優勝、また東中女子は四百リレーで昨年に続く二連覇を飾るなど本町の活躍が関係者間で話題になっています。

小学校のベストを一挙に四歩も伸ばした千鶴子さんは、速い足で助走をき、立派な高跳で、その敢闘精神が高く評価されています。

また、東中勢も、女子四百リレーの部で昨年に続き二連覇を飾ったほか、多くの種目に上位入賞、これまた大曲市での野球部の健闘とともに高く評価されています。

長谷山さんの快記録を喜ぶ老小校長は「いい素質を持っている子が多いが、グラウンドが不十分で十分伸ばせないのが残念。走高跳は狭い場所でも練習でき、自己満足のため、今回の快記録とな



均整のとれた体格で将来が期待される千鶴子さん

六月二十日、本荘南中グラウンドで開催された第29回本荘由利小中学校陸上競技大会で、老小の長谷山千鶴子さんが走高跳に大会新記録で優勝、また東中女子は四百リレーで昨年に続く二連覇を飾るなど本町の活躍が関係者間で話題になっています。

小学校のベストを一挙に四歩も伸ばした千鶴子さんは、速い足で助走をき、立派な高跳で、その敢闘精神が高く評価されています。

また、東中勢も、女子四百リレーの部で昨年に続き二連覇を飾ったほか、多くの種目に上位入賞、これまた大曲市での野球部の健闘とともに高く評価されています。

長谷山さんの快記録を喜ぶ老小校長は「いい素質を持っている子が多いが、グラウンドが不十分で十分伸ばせないのが残念。走高跳は狭い場所でも練習でき、自己満足のため、今回の快記録とな

「一位」▼女子四百リレー 57秒2。長谷山京子・佐々木聖子・鈴木美千子・杉野貴子。

「二位」▼男子八百リレー 2分18秒。伊東厚・女子80リヘドル13秒9。鈴木美千子。▼女子砲丸投9リ10。長谷山京子。▼女子走巾跳4リ43。佐々木聖子。

「三位」▼一年男子百リ走13秒3。佐々木洋一。▼二年百リ走27秒4。同。▼三年男子二百リ走25秒7。佐藤隆。

「四位」▼男子八百リレー 2分18秒。伊東厚・女子80リヘドル13秒9。鈴木美千子。▼女子砲丸投9リ10。長谷山京子。▼女子走巾跳4リ43。佐々木聖子。

今年度の研修員はモスクワコース五百五十人、シベリアコース八十人で編成が予定され、本町には男女各一名の参加者が予定されていますが、女子の応募者が一名もなく、男子四名の応募者の中から前記二名が決定したものです。

八月十日から同月二十三日まで二週間にわたるソビエト青年との友情交歓と親善の旅に発つ同員の参加費用はモスクワコースが二十九万一千円となっており、本人負担は六万五千円、残りは県と町がそれぞれ負担することになっています。

三度目の図書寄贈 元玉米小学校長の加藤和一郎氏(東京都住)から、このほど昨年に続いて係三度目の図書の寄贈があり、関係者を感激させています。

寄贈いただいた図書は前回同様、公民館蔵書として広く町民の閲覧に供するとともに、未長く大切に保存したいと思いをもち、ありがとうございます。



写真前列右から渡辺勝男、畑山課長、中西蔵之助、安倍秋雄、後列右から小松慶悦、渡藤信一、嶺石文敏、島山正美(農委)、小松敏の各スタッフ。ほかに県出向の佐藤孝悦がいる。

本町の主産業である農林業の近代化と産業振興を担当、たくましく男の活気にあふれているのが産業経済課。県営圃場整備や町営、団体の土地改良事業、畜産を始め成長作物として注目を集めている葉たばこ・特殊林産物

「養蚕等の振興に積極的に取り組んでいる。」

昭和五十年の主要事業は二年目を迎えた果樹事業、稲子沢地区土地改良事業、克雪管理センターの完成、集落農場の推進、肉用牛生産団地事業やいこの森造成事業など盛りだくさん。

「養蚕等の振興に積極的に取り組んでいる。」

昭和五十年の主要事業は二年目を迎えた果樹事業、稲子沢地区土地改良事業、克雪管理センターの完成、集落農場の推進、肉用牛生産団地事業やいこの森造成事業など盛りだくさん。

「お悔み申し上げます」 島山梅造 61歳 伊東林一郎 66歳 佐藤フキ子 66歳 佐藤福松 66歳 小松徳太郎 61歳 須郷田61歳 鈴木タマ 68歳

大日向さんを発令 大日向幸子さんの老人世帯を訪問、身のまわりの世話や話相手になる本町二人目の老人家庭奉仕員に、六月八日付で大日向幸子さん(宮ノ前27歳)が発令されました。

四十三年九月から七年近くを永慶保育園に勤務、この間保母資格を取得、園児たちから「幸子先生」と慕われて来たものの、今度は人生経験豊富なお年寄りを相手とする仕事だけに、大日向さんは「大らかで世話好き」という自分の性格をフルに発揮して一生懸命頑張りたい」と決意を語っています。

「お悔み申し上げます」 島山梅造 61歳 伊東林一郎 66歳 佐藤フキ子 66歳 佐藤福松 66歳 小松徳太郎 61歳 須郷田61歳 鈴木タマ 68歳

東由利町報

No. 224の② 昭和50年(1975)7月1日

発行 秋田県東由利町役場 印刷 K K本間印刷所
毎月1日発行(1部20円) 昭和42年7月21日第3種郵便物認可

抄録20年の歩み

(30年~50年)
(カッコは月)

【昭和30年】

▶(7) 下郷・玉米両村合併により東由利村誕生。▶(7) 法内小学校全焼。▶(8) 初代村長に梅津千代太郎当選。▶(8) 消防団統合、団長に佐藤昇就任。▶(8) 宿小増築工事完成。▶(10) 蔵小増築工事完成。▶(11) 笹倉林道・黒沢林道完成。▶(11) 収入役に佐藤直蔵就任。

【昭和31年】

▶(1) 助役に小松忠亮就任。▶(3) 法内小学校新築完成。▶(4) 村公民館・同農業共済組合発足。▶(4) 公民館長に小松栄男就任。▶(7) 村議選挙執行(定数22名)議長に佐藤与吉郎就任。▶(9) 法内小体育館完成。▶(10) 教育長に畑山伝治郎就任。

【昭和32年】

▶(3) 大琴簡易水道完成。▶(3) 消防団長に佐々木直三郎就任。▶(7) 農業委員長に阿部直一郎就任。▶(9) 法内小グラウンド新設、台山同拡幅。▶(10) 教育委員長に小野繁記就任。▶(10) 石高林道完成。▶(12) 玉中グラウンド拡幅完成。

【昭和33年】

▶(4) 新村建設計画樹立。▶東由利連合青年会発足。▶(5) 永慶保育園開園。▶(10) 国民健康保険事業実施。▶(10) 議会事務局設置。▶(10) 教育長に長谷山千代蔵就任。▶(10) ジャージ導入。▶(11) 館合簡易水道完成。▶(11) 芥莊高下郷分校創立10周年。

【昭和34年】

▶(1) 役場新庁舎開庁。▶(4) 村森林組合発足。▶(4) 本莊高校下郷分校旧役場庁舎へ移転。▶(6) みどり保育園開園。▶(7) 村長に阿部直一郎当選。▶(10) 国民年金実施納付・給付開始。▶(12) 農協合併促進協議会発足。

【昭和35年】

▶(1) 村獣医採用。▶(2) 家畜診療所開設。▶(3) 玉中増築工事完成。▶(5) 大琴診療所開設。▶(7) 村議会議員に佐藤与吉郎就任。▶(9) 若林の四世帯ラジールへ移住。▶(10) 教育長に小松忠亮就任。▶(11) 山本町へジャージ1牛初移出。

町制施行

昔の面影が全くない新沢線改良部分

昭和四十九年四月一日、未曾有の豪雪で未だ白一色の中に町勢発展への限りない期待を乗せて町制がスタート、合併に次ぐ本町の歴史の日となりました。

道路状況

国道一〇七号線を幹線動脈に、四通八達した道路網は年々改良整備の手が加えられ、町民生活の向上、産業の振興に大きく貢献して来ている。



内道路の整備改良状況を見るに合併時とはまさに隔世の感がします。

こうした建設の手は一日も休むことなく、日々未来へ引き継がれてゆきます。

除雪態勢

機械八倍に

着実な発展への歩み 「道路、橋梁」変容歴然と



国民健康保険・国民年金の導入。保健婦の採用を始め、大規模水道の布設、ゴミ収集業務の開始など町民の保健衛生・民生等、顕著な福祉の向上には目を見張るものがあります。



冬期交通は除雪車の活躍で心配がなくなった。

山紫水明の郷土の発展を阻害して来た豪雪。その克服のために合併当時一台に過ぎなかった除雪車を四十年代後半から年ごとに増え、現在町有六台、県貸与二台と八倍にして冬期における町民の足を確保。さらに本年度も増強を予定、克雪への万全の体制を整えつつあります。

【昭和41年】

▶(4) 八塩ダムに桜植樹。

▶(8) 成人式を夏に切替える。

▶(8) 島宮橋完成。

▶(10) 教育委員長に小松忠一就任。

▶(11) 八郎湯干拓地第一次入植村から一名合格。

▶(12) N H K テレビ東由利中継局完成。

【昭和42年】

▶(5) 商工・森林・共済三団体事務室完成。

▶(7) 村長に小松栄男当選。

▶(8) 初め農業空中散布実施。

▶(8) 寺田橋永久橋完成。

▶(9) 上里永久橋完成。

▶(10) 教育長に佐々木君三就任。

▶(10) 阿部直一郎県農業会議副会長に就任。

【昭和43年】

▶(3) 助役に伊東利雄就任。

▶(4) 公民館長に阿部直一郎就任。

▶(5) 島部落で十二棟焼失の大火発生。

▶(7) 村議会議員に長沢毅就任。

▶(9) 本莊高校下郷分校新築に着工。

▶(10) 教育委員長に佐藤松之助就任。

▶(11) 須郷田橋、沖田橋永久橋完成。

【昭和44年】

▶(4) 林業構造改善事業に着手。▶(4) 下郷・玉米両中学校名目統合。▶(7) 統合東由利中建築着工。▶(8) 住小会場に移動県庁開設。▶(9) 石田坂橋永久橋完成。▶(11) 黒淵大橋永久橋完成。

【昭和45年】

▶(5) 米の生産調整始まる。▶(9) 本莊由利広域市町村圏組合発足。▶(9) 農業委員長に遠藤孫助就任。▶(9) 誘致工場(坂爪)操業開始。▶(11) 除雪車購入。▶(11) 本莊高校下郷分校新校舎全容完成。▶(11) 智者橋永久橋完成。▶(12) 川原田橋永久橋完成。

【昭和46年】

▶(3) 玉米・東由利両農協合併調印。▶(4) 統合中新校舎で授業開始。▶(5) 村章決定。▶(7) 村長に小松栄男当選(無競争)。▶(10) 東由利簡易水道布設工事に着手。▶(10) 統合中の全容完成。▶(10) 土場沢林道開設着工。▶(12) 老方バイパス完成。

【昭和47年】

▶(3) 丸山橋永久橋完成。▶(4) 助役に小松民三郎就任。▶(4) 公民館長に佐々木君三就任。▶(7) 村議会議長に長沢毅就任。▶(10) 広域消防分署完成業務開始。▶(10) 除雪車購入。▶(12) 田代福祉館完成。

【昭和48年】

▶(2) 向田橋・牡丹野橋永久橋完成。▶(4) 広域ゴミ収集業務開始。▶(6) 消防団機構改革実施、団長に佐藤力就任。▶(6) 東由利水道完成。▶(8) 松沢橋永久橋完成。▶(9) 大台分校新築完成。▶(10) 除雪車購入。▶(11) 明通橋永久橋完成。

【昭和49年】

▶(2) 有史以来の豪雪記録。▶(4) 町制施行。▶(4) 蔵・法内小統合。▶(4) 公民館長に梅津嘉一郎就任。▶(6) 県営圃場整備事業着工。▶(9) 館合バイパス工事着工。▶(10) ローターリー除雪車購入。

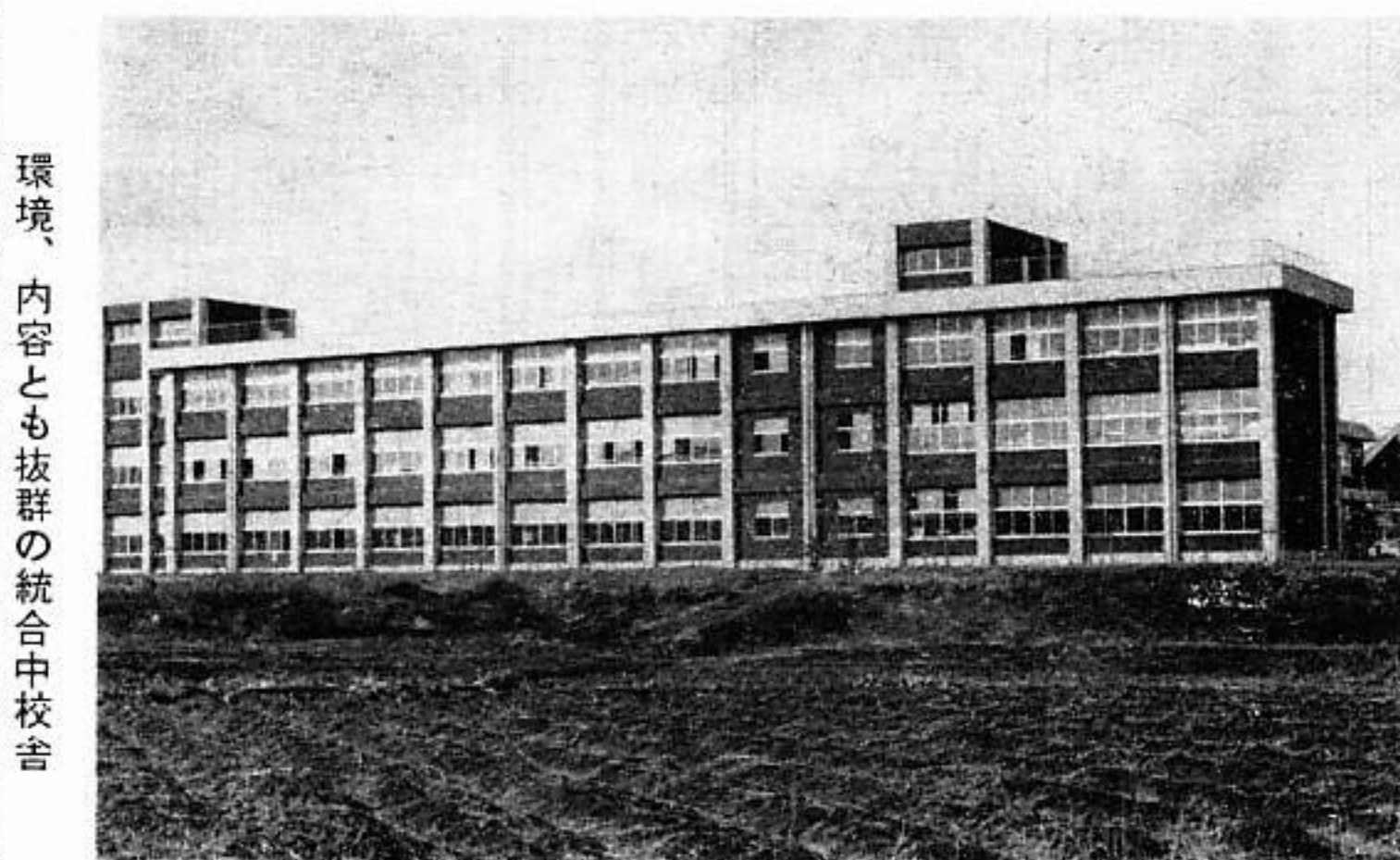
▶(11) 台山線開設工事完成。

▶(11) 館合水道改修に着工。

【昭和50年】

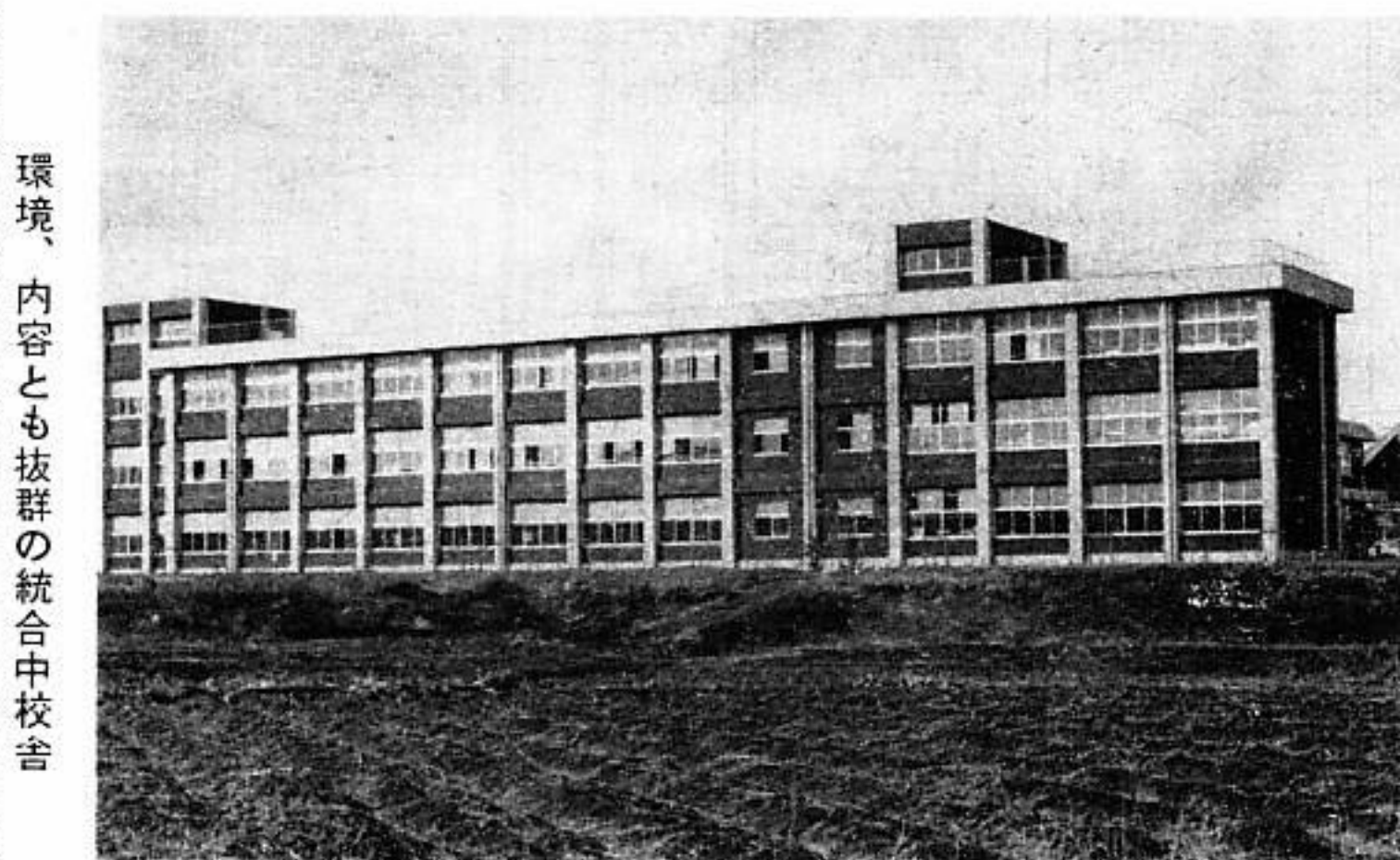
▶(2) 老人いこいの家完成。▶(3) 収入役に小野丹左門就任。▶(3) 下小屋橋完成。▶(4) 本莊高校下郷分校全日制移行。▶(6) 電話自動化実施。▶(6) 福祉バス購入。

環境、内容とも抜群の統合中学校舎



旧木橋とはあまりにも対照的な永久橋(明通橋)

えられるなど、その改良ぶりはめざましいものがあります。



たくましく建設のつち音



来未へつながらる永久建築の基礎杭うち

合併から一時的遅滞もなく伸長発展一途に歩を進めて来た町勢の歩みは、今後より加速なる公民館の建設など二十一年目から二十年目の未来を開拓して行くものと思われまふ。

大規模な県営圃場整備事業による生産基盤の整備、産業の振興、自然と調和を求めうるおの場所となるこの森の造成、社会教育の中核と見られています。

